

ある はるの あたたい ひ のことでした。
きたぐにの よしぎまで

れんによさんは むすめの けんぎよくや

むらの こどもたちと さんぽを していました。

「ここは おやまの うえだから

はれたときは よくみえるね」

「ほら、 おふねを こいでいる ひとまで よく わかるよ」

「よしぎも しかも はじって いく。」

かもめ とんで いる。はねている おさかなも いるよ

れんによさんは「もう おおぜいの ひとがあつまっている。

おはなしに いかなくては」と いました。

けんぎよくは おはなしを きくことが だいすきでした。

